



ハイパー社長に訊く
「わたしのBUSINESS&DREAM」
聞き手：本誌編集長 中内富雄

50、60はハナタレ小僧。 シニア向けSNSで 団塊世代を取り込む

ライブドア事件の際に一躍注目を浴びた平松庚三氏だが、現在はシニア向けのITビジネスに挑戦している。人生は後半戦が面白いと語る平松氏に、事業に賭ける夢を聞いた。



小僧com株式会社
代表取締役会長兼社長

平松庚三

KOZO HIRAMATSU

<http://www.kozo-japan.com/>

突然のライブドア社長就任

2006年1月にいわゆる「ライブドア事件」が起きて、堀江貴文氏が逮捕され、そのあとを継いで平松さんが社長に就任されたんですよね。当時はライブドアの再建請負人としてマスコミにもずいぶん注目されましたが、いまから振り返ってみてどうでしたか？

結局、2年3ヵ月社長を務めましたが、とくに最初の1年間は怒涛のように仕事をしましたね。社員のみならず大変だったでしょうが、僕も1日14~15時間は働いていましたよ。朝の8時から夜の11時くらいまで

仕事をして、その間に8から10のアポイントをこなした。タクシーの中で秘書が用意してくれたサンドイッチを食べて移動するような毎日でした。でも、結果的には素晴らしい経験をさせてもらったと思っています。

僕自身、ライブドアグループで仕事をする前はアメリカンエクスプレスの副社長やAOLジャパンの社長も務めました。いずれもヘッドハンティングされたものでした。通常ヘッドハンティングの場合は入社まで半年くらいの期間がありますから、その間に市場や競合会社の状況、会社の成長性や問題点を把握します。ところがライブドアのときは突発的な社長就任で、何が起きているかさえ分からなかった。

事件の直後に堀江さんから話があって、「最悪の場合、ライブドアグループを引き受けてほしい」と頼まれたときには、グループにどんな会社があるか、株主の構成がどうなっているかさえ知らなかったんです。いわば事件が起きて突然社長を引き受けることになったわけで、僕にとってはいままで経験したことのないような大きなチャレンジでしたね。

しかしライブドアという会社は、当時は“実態のよく分からない虚業”のイメージが強かったのですが、じつはものすごく優秀な社員が揃っていたんです。そんな社員たちが、あの事件で誰ひとり逃げ出そうとせず、右も左も分からない僕をサポートしてくれた。そんな風にして皆で力を合わせて危機を乗り越えた経験が、いまの自分にとって素晴らしい財産になっています。

そのライブドアを退任されたのが07年12月。すぐに小僧comの仕事を始められたと聞きましたが、退任後はのんびりしたいと考えなかったんですか？

まったく考えなかったですね。じつは小僧comの構想はライブドアの社長に就任する前からあったんです。ところがライブドアの社長に就任することになって、小僧com自体は登記だけ済ませて半ば休眠状態だった。だからライブドアの社長を退任したあと、すぐに小僧comの経営に取り掛かりました。

小僧comはたしかシニア向けのSNS(※)ですよ。そもそもの発想はどこから来たんですか？

僕の昔からの夢は、「社長になりたい、リ

平松 庚三 (ひらまつ こうぞう)
1946年生まれ。アメリカン大学 (Washington, D. C.) 卒業。ソニー株式会社に入社し、13年間の勤務ののち、アメリカンエクスプレス副社長、IDGコミュニケーションズ社長、AOLジャパン社長などを歴任。2000年にIntuitジャパンのCEOに就任。02年にMBOにて米国親会社から独立、社名を弥生株式会社に変更し、同社の代表取締役社長に就任。04年全株式を売却してライブドアグループに入る。06年1月株式会社ライブドア社長に就任し、2年間の任期を務め退任。08年1月に人生の後半戦を楽しむアクティブなシニアを応援する小僧com株式会社代表取締役会長に就任、現在に至る。

ーダーになって組織を統率したい」ということでした。実際、39歳でソニーを退職したあと、いくつかの会社の経営に携わるようになったわけですが、50歳を過ぎる頃から自分の定年後を考えるようになりました。一般に世間では、定年後はゆっくりしたいという考えの人が大多数だと思いますが、僕にとっての定年後とは“老後”ではないんです。むしろ人生の“後半戦”という言い方のほうが適切だと思います。

野球やサッカーの試合と同じで、人生も後半戦のほうが断然面白い。だから盆栽をいじったり夫婦でクルージングを楽しむのもそれはそれでいいですが、僕自身は後半戦のゲームプランを立てようと思った。考えてみれば江戸時代は人生50年でしたが、いまは80年、そのうち100年になるでしょう。いまは100歳を迎えても市長さんが記念品をくれる時代じゃないですよ。100歳の人なんてたくさんいますから。そう考えると、当社のサイトにも書いてあるとおり、“50、60はハナタレ小僧。30、40はヨチヨチ歩き”なんです。

その意味でも、僕だけじゃなくて、人生の後半戦を楽しみたいという団塊の世代は多い

※ソーシャルネットワークサービス。ネットワークに参加するユーザーが互いに自分の趣味や社会生活などのことを公開しあったりしながら、幅広いコミュニケーションを取り合うことを目的としたコミュニティ型のWebサイトのこと。